



熊本再春荘病院医療連携室だより

再春

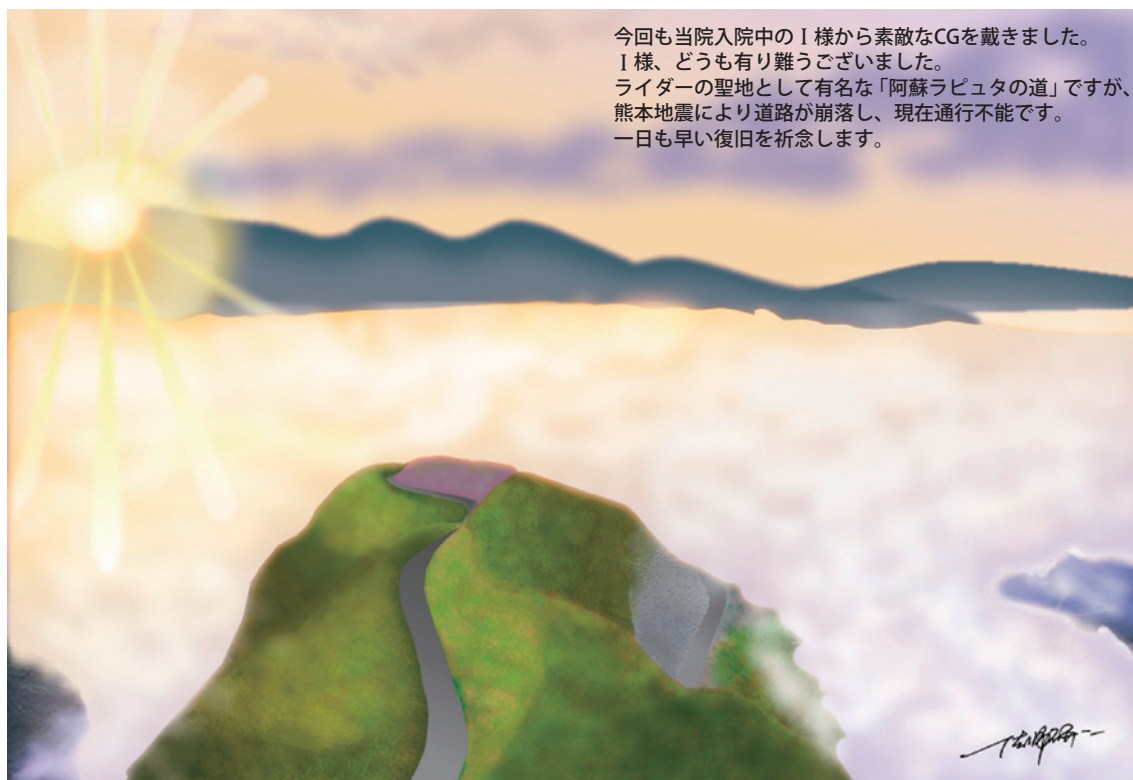


平成29年 第2号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春荘病院
編集：医療連携室

KUMAMOTO SAISHUNSO NATIONAL HOSPITAL

熊本再春荘病院ホームページ <http://www.k-saisyunsou.jp/>



今回も当院入院中のI様から素敵なCGを戴きました。
I様、どうも有り難うございました。
ライダーの聖地として有名な「阿蘇ラピュタの道」ですが、
熊本地震により道路が崩落し、現在通行不能です。
一日も早い復旧を祈念します。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 院長あいさつ | 2 |
| 2. 新病院建替進捗 | 3 |
| 3. 「地域包括ケア病棟」の開設 | 4 |
| 4. 「入院支援室」の開設 | 4 |
| 5. 認知症デイケア「桜ルーム」の開設 | 5 |
| 6. 診療科紹介【小児科】 | 6 |
| 7. 開放型病院登録医紹介【まえだクリニック】 | 6 |
| 8. 診療科紹介【呼吸器外科】 | 7 |
| 9. 開放型病院登録医紹介【清藤クリニック】 | 7 |
| 10. 医療連携の集い報告 | 8 |
| 11. 看護の日 | 9 |
| 12. 新任教員紹介 | 10 |
| 13. 新任医師紹介 | 11 |

地域連携の新たな展開をめざして

病院長 米村 憲輔

新緑の美しい季節となりました。皆様には平素より大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。平成 29 年度も引き続きよろしく御願い申し上げます。

さて例年、新職員を迎える 4 月当初には桜の花は散り始めていましたが、本年は開花が遅れ、まさに満開の季節を迎えていました。そんな中、今年も 27 人の退職、転出する職員を送り出して旧年度が終わり、64 人の新採用、転任の職員を迎えて新年度がはじまりました。新職員の方々には持てる力を存分に発揮して、病院に新風を吹き込んでいただきたいと期待しています。

さて既に広報しておりますが、昨年 11 月より新病院建設に着手しております。安全祈願祭後の進捗は良好で現在ほぼ予定どおり進んでおり、本年中には第 1 期工事が完了する見込みです。その後第 2 期工事と進み、新病院完成にはさらに 2 年程度かかる見込みです。現在の診療体制は維持されますが、周辺道路の工事車両の往来や敷地内の交通制限で、周辺地域の皆様や患者様には長期にわたってご迷惑をお掛けすることになります。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

昨年 11 月に地域包括ケア病棟の運用

を開始致しました。超高齢社会の到来を目前に、地域で協力して高齢者を支える「地域包括ケアシステム」の構築が急がれております。その中では地域における適切な医療の提供が当院の使命であります。高齢者医療における地域貢献の一環として、地域の皆様の緊急時受け入れあるいは在宅・生活復帰支援の場として、地域包括ケア病棟を活用していただければと考えています。どうぞよろしく御願い致します。

平成 30 年 4 月には診療ならびに介護報酬の同時改定、さらに第 7 次医療計画開始など医療・介護施策の大きな節目を迎えます。いずれも超高齢社会における医療・介護の提供体制を視野に策定されるはずで、「キュア」から「ケア」へという社会状況を反映した改定が予想されます。このような情勢の中で、当院も多くの医療施設、介護関連施設あるいは保険福祉関連施設などとの緊密な連携をいっそう密にして、地域包括ケアシステムにおける連携の要の一つとしての役割を、さらに強化していく所存です。皆様には今後とも御支援ならびに御協力賜りますようお願い申し上げます。

新病院建設工事進捗状況

企画課長 古川 孝明

当院においては、特に給食棟が入るサービス棟及び外来管理治療棟が昭和44年の建築のため経年劣化による老朽化が著しく、耐震基準をも満たしていなかったこと、診療機能の充実及び地域の救急医療の積極的な受け入れ等に合わせて増改築を繰り返してきましたが、外来患者の増加により全体的に狭隘となり診察室確保にも苦慮していたことから、今般建替工事を行うこととなりました。

平成27年6月から院内の各部門と幾度となく打合せを行い、約1年をかけて設計を行いました。

新病院建設の主な概要は、建物構造については主に鉄骨作りで新築面積は約2万㎡、改修面積は約1万㎡、旧外来診療棟等の解体延べ面積は約1.9万㎡となり、工期は3期に分けて進める計画です。

I期工事は栄養部門、洗濯部門、中央監視部門、霊安・解剖室が入る新サービス棟の建築で、一部2階建ての建物となり、平成29年10月の運用開始を予定しております。

II期工事は、外来・救急部門及び病棟部門が入る新本館棟の建築で、地上約36.7mの高さの8階建ての高層階の建物となり、最終完成形はI期建物の新サービス棟と合築で平成31年秋頃の運用開始を予定しております。

III期工事は、建築年数が比較的新しい既存の東西病棟をリフォームし、医局や管理部門等に改修する予定です。

最後に、駐車場整備を含めた外構工事を行い、平成32年秋頃の全面完成を目指しております。

I期からIII期まで約4年間の長期間にわたる工事ですが、工事期間中においても診療へ特に影響を与

えることのないよう、整備を進めていく予定です。

上記計画に基づく現在の進捗状況は次のとおりです。

熊本地震による復旧工事等で建設費が高騰するのではないかと危惧しておりましたが、建築、電気、設備の分離発注方式で工事施工業者3社が決定しました。

この結果、平成28年10月から本格着工に向けての詳細な工事スケジュールの作成及び仮設駐車場の整備等を行い11月末の安全祈願祭の翌日から新サービス棟建築のための基礎工事を開始しました。

平成29年4月からは鉄骨組立工事が開始し、外壁パネルの取付工事を5月ゴールデンウィークあけから6月上旬頃までに行う予定です。

また、旧看護学校寮を解体し、その跡地に設置する液体酸素・燃料タンク等の新設備ヤードの建設にも着手しており、現在は非常用発電の燃料タンクの設置が完了し消火ポンプ設備の工事を行うなど順調な進捗状況となっております。



工事着工前



現在の状況



完成予想図



「地域包括ケア病棟の開設」について

経営企画室長 中川 浩介

平成 28 年 11 月より、東 4 病棟を一般病棟から地域包括ケア病棟へ変更し運用を開始しました。平成 28 年 8 月から多職種による委員で構成されるプロジェクトチームで検討を行って参りました。運用開始当初は東 4 病棟入院に適当な患者さんの選択や、転棟のタイミング等の検討課題があったものの、現在は皆様のご理解とご協力により、安定した運用が出来ているところです。

地域包括ケア病棟の開設の目的は、急性期病棟での治療を終えた患者様が、在宅や介護施設での生活に移行するための治療や支援を行うことを目的としています。患者様を一般病棟から地域包括ケア病棟へ転棟するにあたっては、在宅に向けての転棟であることを必ず患者様にお伝えし、理解を得る必要があります。紹介元の病院が有床の病院であれば、地域包括ケア病棟への入院ではなく、紹介元病院で入院治療を継続していただくことが原則です。思いやりの心を持って、安心と信頼の医療を提供するため引き続き地域包括ケア病棟の運営にご協力下さいますようお願いいたします。

■ 入院支援室 紹介 ■

外来師長 山田 理恵

平成 28 年 12 月に外来受付前に入院支援室を開設しました。入院が決定してから実際に入院するまでに、患者様の身体的・社会的・心理的問題を含む基本情報について事前に担当看護師が聞くことで患者様にとって不安の軽減が図れること、また病棟看護師にとっては入院前に情報を確認し整理することで業務の省力化を図ることを目的としています。具体的には患者様からの情報収集をはじめ入院生活についての案内や入院当日の流れ、およその入院期間、手術に関するスケジュール等を説明し、必要に応じて MSW、管理栄養士・薬剤師等へ情報提供や連絡調整を行っています。

開設当初は外科手術で入院される患者様に行っていましたが、現在は診療科を増やし、整形外科で入院される患者様も対象とし毎月約 20 名程度の介入を行っています。患者様からは、入院後のスケジュールや不安に思っている事、医師からの説明で分からなかったことなど看護師に尋ねることができて良かったなど入院や治療に対して前向きな言葉が聞かれています。また病棟看護師も事前に患者情報が得られることで、患者様が疾患や入院についてどのように受け止めているかわかるため介入しやすいなど良い意見も聞かれています。今後も他職種との連携も含めより患者様が安心して入院できるように体制の強化に努めていきたいと考えています。

院内デイケア「桜ルーム」をはじめました！

東4病棟看護師長 大久保 祐子

近年、認知症患者の増加はどの病院でも課題となっており、当院も外間にもれず年々 90 歳から 100 歳の患者が増加の傾向にあり、それに伴い認知症合併の患者も増加しています。

平成 28 年度より同じ機構病院の菊池病院より認知症看護認定看護師を派遣していただき認知症ラウンドを実施し、認知症看護の質の向上に努力していますが、環境不適應による譫妄症状の悪化などケアの方法に苦慮していました。各病棟それぞれのナースステーションで車いすに乗せられテレビを視聴する患者に何とかして安楽な時間提供をはかり、昼の時間に活動することにより夜の安眠へとつなげたいと考え、院内デイケアを始めることにしました。

開設準備として、師長会議で看護部長からの提案をうけ、関係部署でプロジェクト会議を 3 回実施後、平成 29 年 1 月 16 日より 2 時間の枠で実施することになりました。担当者の配置、該当患者の基準、参加人数、評価スケールの検討を進めました。また、療育指導室にも協力を依頼し、保育士による支援体制も整えました。

2 か月を経た経過 (1/16～2/28) としては、延べ参加者数：79 名、平均年齢：84.4 歳、1 日平均参加患者数：3.6 名 (病院全体の行動要観察者の 30% が参加している) でした。

患者の反応としては、夜間の不穏がある患者の参加が多かったのですが、参加している間は、集中できておられました。また、女性の患者は身だしなみに気をつけるよう

になり、お洒落して参加する場面がみられました。徘徊の多い患者は、他患者の事を気遣いリーダー役を担っていました。昼夜逆転傾向のある患者は、参加中の午睡が目立ちますが、寝たり起きたりしながら短時間の参加は可能でした。

担当スタッフの反応としては、参加者を集中させるために、色々考えたり、工夫をする姿が見られ、スタッフの患者対応の技が広がりました。また、スタッフ自身がニコニコして参加しており、楽しいという声が多く聞かれました。

今後の課題として、N 式評価表を使用して、患者の変化を評価しようと試みましたが、看護記録に参加中の記録しか記されていない事の方が多かったです。院内デイケアに参加しての患者の夜間の状態や、デイケアでの様子を患者に確認しながら、看護を展開している記録が少なかったです。N 式評価表の項目を追加し、患者の変化が分かるものに変えていく必要があると思われました。

将来的には、「桜ルーム」を担当したスタッフへアンケートを取り、内容をより充実させていきたいと考えています。



診療科紹介 No.6

小児科のご案内

小児科部長
今村 穂積

当院小児科では8名の小児科医（うち小児科専門医6名）により診療を行っています。重症心身障害児者、神経筋疾患、心身医学に関して特に力を入れており、それぞれの分野においては熊本県内でも中心的な役割をしています。重症心身障害児者に関しては80名の長期療養患者が入所しておられ、外来診療のほか、訪問診療、レスパイトの受け入れなど、在宅医療の援助を行っています。てんかんをはじめとする神経筋疾患では昼夜脳波等も検査可能で、小児神経専門医2名を中心に診断治療をおこなっています。不登校などの心身医学では、支援学校と連携し入院しながらの登校支援もおこなっています。他にも感染症、アレルギー疾患、内分泌疾患、発達外来など、すべての範囲の小児を受け入れていきます。県北小児科の拠点として、周辺の医療機関とも協力をして地域の小児医療を支えていきたいと思っています。

【小児科外来】	月	火	水	木	金
今村 穂積			○		
岡田 拓巳				○	
樫木 仁		○			○
橘 秀和	○				
【小児神経発達外来】	月	火	水	木	金
池田ちづる	○	○	○	○	
島津 智之				○	○
上野 弘恵	午前中		午前中		午前中
【発達障がい外来】	月	火	水	木	金
島津 智之		14:00~16:00	○		
【不登校外来】	月	火	水	木	金
島津 智之		10:00~11:00			10:00~11:00

開放型病院登録医紹介

まえだクリニック

院長／前田 淳子

熊本県熊本市北区龍田8丁目15-64

TEL 096-338-1637 FAX 096-338-1610

診療内容／内科、呼吸器科、消化器科、小児科

診療時間／ 9:00~12:30

16:00~17:30、16:00~18:30(水)



診 察 日	月	火	水	木	金	土	日
9時~12時30分	○	○	○		○	○	
16時~17時30分	○	○			○		
16時~18時30分			○				

※14時~16時 訪問診療

まえだクリニック 前田院長先生は、熊本市北区龍田に開業され、平成23年8月より熊本再春荘病院開放型病院登録医として多くの患者様の共同診療を実施されています。

また、清藤クリニックの清藤院長先生と共同で訪問診療にも力を入れられ、多職種連携により情報を共有しながら地域医療に広く貢献されています。



診療科紹介 No.7

呼吸器外科のご案内

呼吸器外科医長
小林 広典

当院の呼吸器外科は専門医の小林が、消化器外科大原・富樫・川田の協力と熊本大学呼吸器外科の手術支援のもとに年間約 60 件の手術を行っています。呼吸器外科が診療する疾患は肺がん、縦隔腫瘍、自然気胸、膿胸などがありますが、当科の手術症例の 60% を肺がんが占めています。肺がんの治療は、手術の他にも化学療法・分子標的治療・免疫療法や放射線治療がありますが、臨床病期 I, II 期と III 期の一部の症例で最も効果的な治療は手術です。安全性や根治性を考慮しながら、90% の症例で胸腔鏡下手術を行い、低侵襲で痛みが少なく、回復の早い治療に努めております。当院は熊本県指定がん連携拠点病院として、肺がんの診療には特に力を入れております。肺がんの診断では、超音波気管支内視鏡を用いた肺野末梢病変に対する正確な診断（呼吸器内科）、気管支鏡で到達不可能な病変に対する CT 下経皮針生検（放射線科）のほか、本年より熊本大学医学部附属病院病理部とのテレパソロジー（遠隔病理診断）システムが稼働し、より円滑な術中迅速病理診断が可能となりました。早期から進行・再発肺がんまで呼吸器外科・内科・放射線科と連携を取りつつ、緩和ケアチームを含めた集学的治療のチーム医療を行っています。

■呼吸器外科	月	火	水	木	金
小林 広典			○		
■外 科					
大原 千年	○	(手術日)		(手術日)	○
富樫 陽彦			○		○
川田 康誠	○				

開放型病院登録医紹介

清藤クリニック

院長／清藤 千景

熊本県熊本市北区武蔵ヶ丘4-10-14

TEL 096-223-5373 FAX 096-223-5345

診療内容／内科、呼吸器内科、小児科、緩和ケア内科

診療時間／ 9:00～12:30

14:00～18:00 (訪問診療)

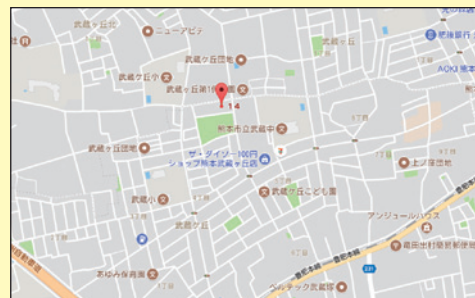


診 察 日	月	火	水	木	金	土	日
9時～12時30分	○	○	○	○	○	○	
14時～18時	○	○	○		○		

※午後は訪問診療

清藤クリニック 清藤院長先生は、平成 24 年 11 月より、熊本再春荘病院開放型病院登録医として多くの患者様をご紹介いただき、共同診療を実施されています。

熊本市北区武蔵ヶ丘に開業され、熊本市北区のみならず、合志市、菊陽町をはじめ広く在宅でのお看取りや訪問診療に取り組まれており、地域の看護師、理学療法士、薬剤師、ヘルパーやケアマネージャーの方々と情報を共有しながら地域医療に貢献されています。



第9回『医療連携の集い』

副院長 上山 秀嗣

平成 29 年 5 月 27 日 (土)、ホテル日航熊本において第 9 回『医療連携の集い』を開催しました。昨年は 7 月末の開催であったため非常に暑く皆様にご迷惑をおかけしたのではないかと反省に立ち、今回は時期を早めて 5 月末の開催に変更しました。院内外含め 184 名の参加があり、盛況のうちに終了することが出来ましたことを御礼申し上げます。

例年通り開放型病院運営連絡協議会に引き続いて、5 階阿蘇の間にて講演会を行いました。最初に副院長より「診療支援部からのお知らせ」を約 10 分間行いました。今回は昨年 10 月より開始されました新病院立て替え事業（外来・一般病棟・サービス棟新築整備）、および昨年 11 月より開設されました「地域包括ケア病棟」についても報告しました。特別講演としましては「病院感染対策チーム (ICT) と地域医療連携」のテーマで、感染制御医師の立場から坂本 理 統括診療部長が、感染管理認定看護師の立場から田中 亮子 副看護師長が各々講演を行いました。その後隣室に移動して行われた意見交換会では、菊池郡市医師会副会長の樽美光一先生による乾杯のご発声の後に懇親会を行いました。会の半ばには例年通り統括診療部長による診療科紹介が行われ、出席した医師全員が壇上で自己紹介を行うという、‘顔の見える’医療連携を実践することができました。最後は大原診療支援部長の閉会の挨拶で幕を閉じましたが、多数の皆様方と懇親を深めることができましたことを御礼申し上げます。

当院は今後も地域医療支援病院としての役割を果たすべく、菊池医療圏をはじめとする近隣医療機関の皆様方との医療連携を深めて参りたいと思いますので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

尚、来年は記念すべき第 10 回目の『医療連携の集い』を平成 30 年 6 月 2 日 (土)、同じくホテル日航熊本にて開催予定ですので、多数の皆様方のご出席をお待ちしています。



講演会



意見交換会での米村院長ご挨拶



3年前より、地域コミュニティの場である温泉センター「ユーパレス弁天」の玄関ロビーをお借りして「看護フェスタ!再春」と称して、看護の日のイベントを開催しています。病院の全面バックアップの支援をうけて、看護師が、企画・運営を行い、今年は、各部署から、1～2名の看護師が出動し、総勢21名で開催しました。5月10日の13時～16時、荷物運搬から会場設営・お客さまへのアピールと看護のためには労力を惜しまない看護師魂が炸裂しました。

イベント内容は、毎年、看護師の仕事や、医療の傾向を知る機会になるものと考えています。今年は、体験・実演コーナー、計測コーナー、認定看護師による生活指導コーナー、ポスター掲示など取り入れました。恒例となりつつある「ユーパレス弁天」での「看護フェスタ!再春」に、117名の住民の参加をいただきました。



✧体験コーナー✧

手洗い

念には念をいれて、手を洗っても、チェッカーでみると、青白く光る洗い残り部分にびっくり。



✧計測コーナー✧

健康に年を重ねたいと日頃から生活に気を配っている方も多く、血圧や血糖測定結果から、日常生活に活かせる指導や質問に分かりやすく説明を行う看護師と住民の方の笑顔が多くみられました。



AED

AED体験への熱心な参加者が増えました。昨年の熊本地震を被災したことからの、いざという時に備えたいと参加される方が多かったです。看護師の手拍子に合わせての胸部圧迫や、AEDのボタン操作に励まれました。

一度体験をしたかったので良かったと話されました。

✧認定看護師による相談コーナー✧

病院には、9名の認定看護師が活動しています。今回は、感染管理認定看護師、緩和ケア認定看護師、慢性呼吸器看護認定看護師が、会場で住民の相談を受けました。より専門性の高い認定看護師からの説明はわかりやすく、日常生活の見直しにつながりたいという声がかれました。



日頃培った看護の技術や知識をフルに活用し、親切・丁寧な対応だったと大好評を得られ、参加した看護師はやりがいを感じた一日でもありました。また、アンケートには、熊本再春荘病院に対して、常日頃感じておられる住民の温かい思いがありました。3年後には、熊本再春荘病院の新築完成予定であり、そのポスターをご覧になり喜ばれ、熊本再春荘病院の発展に期待されている思いもいただきました。地域住民の方に、看護師の姿をとおして、熊本再春荘病院を知って頂く良い機会となったと思われました。

新任職員紹介

看護部長 稲葉 眞理

皆さん、こんにちは。看護部長の稲葉眞理と申します。開花が遅れた桜並木が“おかえりなさい”と迎えてくれ、看護師人生の第1歩踏み出しから平成2年に転勤するまで楽しく過ごしていたことを思い出させてくれました。

今回、約27年ぶりに熊本再春荘病院で働く機会をいただきました。九州管内7施設で看護管理の経験を積み、見た目だけでなく内面も大きく成長してきたつもりです。「誰もが気軽に語り合え、お互いを認め合える看護部」を目指していきたいと思っています。

熊本再春荘病院の発展に貢献できるよう精一杯頑張りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

事務部長 木下 真一

熊本再春荘病院に18年ぶりの2回目勤務をすることになりました、事務部長の木下です。

異動は今回で9回目、熊本再春荘病院は2回目となり、前回の勤務期間は採用された熊本病院以外では一番長い6年間でした。その間の思い出としては、個人的には子供達の小学校入学、自宅建築、病院は外来棟改修、取り付け道路の変更、臨床研究部の発足、熊本電鉄バスの乗り入れ等多くあります。最後の2年間(定年です)が思い出の多い熊本再春荘病院である縁を大事にし、病院に少しでも貢献できるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

経営企画室長 中川 浩介

4月に経営企画室長で参りました中川浩介です。前任地は指宿医療センターで風光明媚な観光地にあり、毎日温泉(地域には砂蒸し以外の普通の温泉がいたるところにあります。)に浸かりながら充実した毎日でした。さて熊本再春荘病院ですが、12年前に3年間勤務していました。その頃は国立だったこともあり慢性期の療養所として比較的ゆったりとした雰囲気だった記憶があります。今回着任しての一番の驚きが急性期病院に変貌していたこと、次ぎにスタッフの人数が随分増えていたことでした。スタッフの皆さんは忙しい中にも活気が満ちており、私も頑張らないといけない!と引き締めた次第です。元より微力では御座いますが仕事には全力であたる所存ですので(叱咤)激励していただければと思います。よろしくお願いします。

医療安全管理係長 看護師長 折田 とさえ

嬉野医療センターより4月1日付けで異動してきました折田です。熊本再春荘病院は4年ぶりです。今年の桜は、遅咲きだったため随分と元気をもらいながら眺め、熊本再春荘病院の桜のスケールに改めて感動しました。転勤時に眺める桜は、複雑な心境に染みて美しさをより一層感じます。

今回、医療安全管理係長の経験がない私が、機能評価を受けるタイミングで病院の安全な医療の提供の役割を担うという部署への配置に不安はぬぐえませんが、皆様の協力を頂きながら前へ進めたらと思います。4年間の単身生活は仕事面にもプライベートでも変化となり多くのことを学び刺激を受ける機会となりました。4年間の経験がこれからの役割に活かせるよう頑張りたいと思います。

皆様の部署へ伺いますので、敬遠せずにコミュニケーションをとっていただければと思います。そして医療安全室へも足を運んでいただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

地域医療連携係長 看護師長 高村 由紀子

4月より地域医療連携室に勤務させていただきます、高村由紀子と申します。8年ぶりに熊本に帰ってきました。初めてお会いする方も多いのですが、看護師長昇任で転勤するまでは熊本再春荘病院に勤務していたので見知った顔が多く、「お久しぶりです」という気持ちです。今回は病棟を離れた部署での初めての勤務となり緊張していますが、連携室・各病棟のスタッフ、他職種と連携しながら熊本再春荘病院の医療・看護に少しでも貢献できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育研修係長 看護師長 西山 幸子

この度、熊本医療センターより昇任でまいりました、教育研修係長の西山です。熊本再春荘病院へは看護学生の時に、実習でお世話になりました。その頃とは政策病棟の建物も変わっており、やっと院内の病棟の配置を覚えたところですが、昇任したばかりで、教育研修係長ということで、不安いっぱいですが、精一杯頑張りたいと思います。ご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

南1病棟看護師長 赤星 とも子

4月より恵楓園から異動して(帰って)まいりました。2年の間に変わった部分もあり、戸惑う事もありますが、ああそうだった一思い出しながら過ごしています。懐かしいというより、久しぶりの感覚です。恵楓園では、入所者に寄り添うとはどういう事かを考える機会が多くありました。その経験を南病棟の看護に活かし、患者様の療養生活が充実したものになるよう頑張っていきたいと思っています。

療育指導室長 植村 安浩

東佐賀病院より参りました療育指導室長の植村です。山鹿市にアパートを借りて、ここまで通っています。山鹿は温泉もあり、近くには装飾古墳もあり、静かな街なので気に入っています。小2になる末娘も早速お友達が出来て、楽しく学校に通っています。

宮崎病院から宮崎東、南九州、長崎川棚、東佐賀、そして熊本再春荘病院と輪を描くように異動しました。重症心身障害病棟と筋疾患病棟、通所のある施設は2施設目で、赴任後に業務の多様さを改めて認識し、緊張しております。皆様宜しくお願いします。

理学療法士長 坂本 浩樹

4月1日付け、配置換えで参りました坂本です。鹿児島、熊本、長崎の医療センターでそれぞれ3年間勤務し、当院へは2回目となります。以前とは、院内のシステムや自分の役割も異なり、まだまだ戸惑っています。早く業務に慣れ、戦力として活動したいと思っています。当院は政策医療に加え、急性期医療、がん診療拠点病院、地域医療支援病院等の役割を担っています。昨年からは地域包括ケア病棟が立ち上がり、院内でのリハビリテーション科の役割も変化し、多岐にわたっているようです。近年の医療情勢の変化を踏まえ、最適なリハビリテーションサービスを提供し、地域に貢献できる医療を目指して頑張ります。宜しくお願いします。

新任医師紹介

神経内科医長

石崎 雅俊



4月から勤務させていただくことになりました平成13年卒の石崎雅俊と申します。昨年度は、熊本南病院で県南の神経難病患者さんを中心に診療させていただき、1年ぶりに再春荘に戻って参りました。早速、医療スタッフや患者さん方などから暖かく出迎えていただき大変嬉しく思うのと同時に、とても懐かしい気分になりました。今後、神経難病だけでなく、一般神経内科疾患においても、患者さん、地域の皆様、病院に貢献できるように、頑張っていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

神経内科

今村 美智恵



4月より神経内科に勤務しております今村美智恵と申します。長野県の諏訪中央病院で初期研修、内科後期研修をおこない、2016年に熊本大学神経内科に入局後1年間熊本大学病院で勤務しておりました。ようやく新しい環境にも慣れてきましたが、先生方もスタッフの皆さまもとても暖かく、よい環境で勤務できているな、と日々感じております。私は神経難病に興味を持ち、神経内科を志しました。まだまだ未熟ですが、皆様と向き合いながら少しでもお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

代謝内科

櫻田 郁



4月より代謝内科に赴任しました櫻田です。筑波大学卒業後、熊本大学代謝内科に入局し、大学病院、国立熊本病院（現：熊本医療センター）で研修し、国立病院機構熊本南病院、熊本大学医学部附属病院などに勤務致しました。実家が転勤族で北九州、兵庫、千葉、福岡などで過ごし、大学時代は茨城県にあり、社会人になって熊本にきました。熊本在住16年目になりますが、まだまだ知らないことが多く、当院赴任を契機にこの地区の探検をしたいと考えています。先生方やスタッフの皆様と一緒に、患者様の生活に寄り添いながら地域医療に貢献できるよう努めます。宜しくお願い致します。

小児科

橘 秀和



4月に小児科に1年半ぶりに戻ってまいりました、橘 秀和と申します。小児科医としてスタートしたこの病院にまた戻ってくることができて、大変うれしく思っています。育てていただいた再春荘病院のため、この熊本北部の皆様のために、これまでに経験してきたことを活かして、少しでも貢献できるように頑張ります。また小児科医、医療人として自分を高め、成長できるよう精一杯努力していきますので、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

整形外科

今村 悠哉



整形外科の今村悠哉です。生まれも育ちも熊本で、旅行等を除き一度も熊本県外で生活したことのない純正の熊本人です。今まで市電を含め熊本で電車に乗ったことがほとんどなく、初の電車通勤を満喫しているところで、医師となってちょうど10年目となります。ここ5年間は大学院4年+救急外来1年と久しぶりの病棟かつ整形外科勤務となります。不慣れな点が多く皆様にはご迷惑をおかけすることが多分にあると思いますが、よろしく願いいたします。

整形外科

坂本 圭



4月より整形外科として勤務させていただいております坂本圭と申します。整形外科医としては3年目で、昨年は熊本医療センターで勤務していました。まだまだ未熟者で、皆さんに多々ご迷惑をおかけすると思いますが、少しでも力になれるよう、また患者様のために力を尽くしたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

整形外科

松永 英人



はじめまして。今年度より熊本再春荘病院にて勤務させて頂くことになりました、整形外科の松永英人と申します。出身は福岡大学で、初期研修の後に、浜の町病院にて、麻酔科後期研修医として2年間の研修を行い、昨年、熊本大学整形外科へと入局致しました。整形外科2年目であり、自分の未熟さを痛感する毎日ですが、患者様に思いやりのある医療を提供できるよう、皆様のご指導の下、精一杯頑張っていきたいと思っています。至らぬ点多々あると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



国内最大級のネットワーク

国立病院機構 熊本再春荘病院

